

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

HP <http://kohoku-saibora.jimdo.com>

FB 港北区災害ボランティア連絡会

85号

2020年4月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

地震＋台風

地震＋感染症 どうする？避難所運営

昨年の台風19号襲来時にぐらっときたのを覚えている人も多いと思います。心底どきっとしました。幸い小さな地震で済みましたが、被害が出るような地震だったらどんなことが起きたか、考えるだけで恐ろしくなります。こんな厳しい状況ではなくても避難所でノロウイルスやインフルエンザなどの感染症が発生した事例は起きています。ノロウイルスが発生した福島最大の避難所ビックパレットでは本当に死者が出るのではないかと関係者は危惧しました。そんな事態を上回る危険性を生むのが現在世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルスです。最近の気象異変からすれば今年も洪水被害の発生が予測されます。地震はいつ起きてもおかしくないと考えるべきです。そんな災害が今年起きたらどうすれば良いのでしょうか。

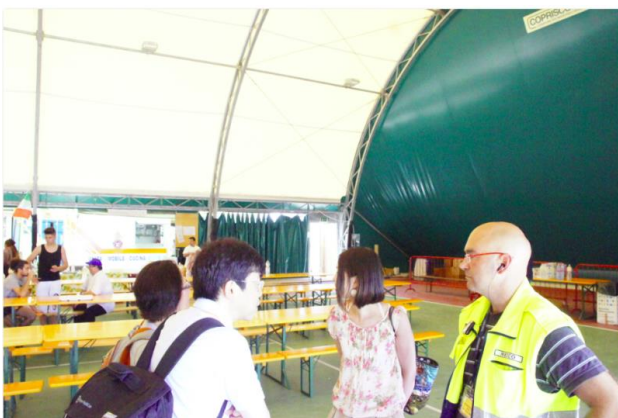
自宅が危険であれば避難せざるをえません。避難所は密集した密閉空間です。雨が降れば

窓開けもままなりません。ただでさえ世界的に低水準と言われる日本の避難所です。

今年4月1日に内閣府は「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について」との通達を出しています。避難所が過密にならないよう指定外でも多くの避難所を開設すること、ホテルや旅館の活用も検討するようにしています。私たちは食堂テントや移動トイレがすぐに到着するイタリア並みの避難所が標準となるよう、スフィア基準を学び実現することが必要でしょう。



体育館避難所の食事(神戸)



イタリア避難所の食堂テント 宮定氏提供

※スフィア基準—災害や紛争などの被災者に対し人道支援活動を行うときの最低基準の通称。正式名は「人道検証と人道対応に関する最低基準」必要な水の確保、適正な食料配布、トイレの設置基準、避難所の一人当たりの最低基準など、詳細が書かれている。日本でも普及のための団体が立ち上がっている。

何故買い占めが起きたのか

今回の新型コロナウイルス流行では、マスクや消毒薬は言うに及ばず、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、カップ麺、体温計などさまざまな品が買えなくなる事態が起きました。トイレットペーパーは95%が国産で平常時なら不足する筈の無いものです。また28度のお湯を飲むと防げるなどのデマを信じてSNSで拡散してしまった人も多くいたようです。

災害とデマはつきものといえますが、冷静に考えればすぐ分かりそうなものを何故信じてしまうのでしょうか。そこには人は自分の信じたいことを信じるという厄介な性質が関係しているようです。

空っぽになったドラッグストアの棚



連絡会会員はこのような事態には冷静になるよう周りに呼び掛けることも必要ですし、まずは自宅の備えを日常から怠らないことが求められます。みなさん、やっていますよね。

(宇田川)

異動の季節

総務課の佐藤さん、子ども家庭支援課の濱島さん、ともに異動となったそうです。福本さんも担当が変わるそうです。お世話になりました。新天地での活躍をお祈りします。

会員の皆様へ緊急かつ重要なお願い

港北区災害ボランティア連絡会会長 宇田川規夫

新型コロナウイルスの影響で3月の定例会が開けませんでした。4月の定例会も開催できません。年度末で昨年度の振り返りや新年度方針について皆さんの声を多く聞いた上で作り上げたいと思っていたものができなくなりそうです。連絡会の方針は役員が決めるものではありません。会員の声の重役として方針はあります。この異常な事態の中、会員の皆さんが積極的に声を出してくれなければ新年度方針を作る事はできなくなります。そこで皆さんへのお願いです。

1、今年度の振り返りアンケートを必ず出してください。ウェブでもファックスでもどちらでも結構です。

2、新年度にやりたいこと、取り組んでほしいこと、定例会には参加できないが会員としてできそうなこと、何でも結構です。1人1アイデア以上いくつでも提案してください。これらがないと私たち役員は良い新年度計画を作る事は不可能です。すべての会員のご協力をお願いします。

9年目の東北被災地

「仮設のほうがよかった」と

言わせてはいけない

郡山市にある東原復興住宅に年4回程度通っています。防災仲間のハートネットふくしまのお手伝いです。そこには二度と帰ることのできない大熊町や双葉町から避難してきた方々が住んでいます。ハートネットふくしまは震災直後から避難所、仮設住宅から復興住宅と人々の住まいが変わるたびに支援を続けてきています。私は二本松市にあるJICAの青年海外協力隊訓練所での講座のたびに、訓練

所の候補生を連れてお手伝いをしています。何か福島のために活動したいと思っている候補生も多く、時には10名ほども参加します。



お母さんたちと一緒に餃子づくり

住まいが落ち着いた現在の活動はお茶会のお手伝いです。一緒にうどん作りをしたりお菓子作りをしたりしてワイワイ楽しくおしゃべりします。

でもこんな集まりがどこの復興住宅でもできているかと尋ねると、意外にそう簡単ではない現実を知らされます。自治会長が熱心でなかったり、そもそも知らない人間同士が集まる復興住宅では一緒に何かをやろうと言う機運が生まれなかったりするからです。

そんな中では神戸でも多発した復興住宅での孤独死や自殺が東北各地でも起きています。そういった時必ず出る言葉が「仮設のほうがよかった」です。バラックと言っても過言ではない隣の声が筒抜けの仮設住宅ですが、扉を開ければ顔見知りのご近所と交流ができます。しかし復興住宅では鉄の扉を閉められたらもうどうしようもありません。だからこそつながり続けることの重要さはいよいよ増していると言えるのです。

連絡会が取り組んでいる被災地商品の販売は、横浜でも忘れていませんよというメッセージを被災地に送ることにつながります。新型コロナウイルスの影響で春のイベントが軒並み中止になっていますが、自分の身の回り

の人へ斡旋することも大切な活動です。こんな時だからこそそんな形で各被災地とつながり続けたいですね。

そんなおつきあいのある復興住宅に3月11日も伺いました。ここでは毎年故郷大熊町の方角にハート形にキャンドルを並べて追悼式を行います。今年も同じように準備していましたが、途中で小雨がぱらついたり、強風で



キャンドルが倒れたり心配でしたが、2時半頃には天候も安定してきて、ふと空を見上げたら虹が出ているではありませんか。こんな祈りの時間に天気が荒れたと思ったら虹が出るなんて、天が共に祈ってくれたように感じます。犠牲者の魂と被災した方々の今後を虹に向かって祈りました。(宇田川)

リレー連載 我が家の防災 ②④

一政さんちの防災対策

我が家は夫と次女の3人暮らし。防災にまったく関心のなかった時に比べたら格段に「備え度」は上がっているけれど、家の中すべてを対策するにはまだまだで、いいところ60点くらいでしょうか。わかっちゃいるけど仕事はフルタイム、週末は地域活動、一気に完璧にやろうと思うと「無理」が先にたってしまうので、優先順位をつけて、コツコツ防災を心がけています。最優先は家具の固定、しかも、寝室とリビング、キッチンから始めていて、納戸のタンスはこれか

らです。次はガラスの飛散防止ですが、実は食器棚で力尽き、フィルムを貼るのが面倒になってガラスを外してしまった家具もあります。突っ張り棒で布をかけて目隠ししていますが、それはそれでいい感じです。(写真)



あとは、寝ている間の地震が怖いので、ベッドの脚に、靴を入れた袋と懐中電灯（ペンダント型、ヘッドライト型）を結わいて（置くだけでと吹っ飛んでしまうそうです）備えました。食材は生活クラブ生協で共同購入してるので、定期的に回転備蓄がスムーズにできています。ペーパー類も常時ストック。今回のコロナウイルス感染拡大に伴う「物が無い」パニックにも動揺せず生活できました。残り40点アップのためにはまずは『断捨離』で家の中のモノを減らさないと！新年度の目標です。
(NPO 法人フォーラム・アソシエ 一政伸子)

役に立つ災害本

『「感染症パニック」を避け！』

岩田健太郎著 光文社新書

新型コロナウイルスのために隔離されたクルーズ船ダイヤモンド・プリンセスに入り、その対応のずさんさを YouTube で告発して話題になった感染症のプロが2014年に執筆した本です。内容は表紙記載のサブタイトルにある通りリスク・コミュニケーション入門です。リスク・コミュニケーションとはリスクを伴う場合の科学技術に関するコミュニケーションで、感染症を含む医療健康、事故、環境問題など、あらゆるリスクが対象になります。本書の大部分は、著者の専門である感染症が例に出てはきま

すが、感染症に限らないリスク一般のコミュニケーションを扱っています。リスクに対しては、パニックになってもいけなく、逆に不感症になってもいけなく、適切な程度に恐れて行動しなければなりません。

当該リスクの専門

家は、一般の人たちに適切に恐れてもらうようなリスク・コミュニケーションを取らねばならないのです。本書は、今回の新型コロナウイルスに対する心構えを持つために読んでもよいですが、災害というリスクに対峙する災害ボランティアがより良いリスク・コミュニケーターになるために読んでおくべきだとも思います。なお、光文社新書のウェブサイトで本書の「はじめに」と本文の最初の2節が全文公開されています。本書のタイトルでネット検索してみてください。
(室伏俊明)



編集後記

☆危機管理の際のコミュニケーションが下手だと余計に心配がつのるコロナ感染です。責任者がどのように安心できる言葉を発するか、中身が重要です。
(宇田川)

☆娘の勤務先で「週末の食材が無い」という話があったそうです。感染症どころか、地震が来たらどうするんだろうと心配になりました。
(中島一)

☆コロナウイルス感染のためだけだとは思いますが、店頭からマスクなどの商品が消えました。幸い災害備蓄をしていたので、慌てることなく生活しています。
(付岡)

☆感染症に限らない一般のリスクコミュニケーションに関する本も何冊か出版されていますので、検索してみてください。
(室伏)